

第11回能代市総合計画市民協働会議

日 時 平成21年11月25日（水）

午後7時

場 所 能代山本広域交流センター

多目的ホール

会 議 概 要

1 開 会

2 委員長あいさつ

柴田委員長から、会議の開催にあたってあいさつがありました。

3 協 議

全体協議

①まちづくり評価書について

事務局から、前回の運営グループ会議の概要について報告がありました。また、まちづくり評価書（案）について、前回からの修正箇所の説明がありました。

全体協議では特に質疑はなく、原案のとおり了承されました。

②まちづくり提案書について

事務局から、まちづくり提案書（案）について、前回からの修正箇所の説明がありました。

全体協議では特に質疑はなく、原案のとおり了承されました。

③提案文について

事務局から、提案文（案）について、前回からの修正箇所の説明がありました。

全体協議では特に質疑はなく、原案のとおり了承されました。

④提案書類の調整について

事務局から、市長への提案書類について、提案文、まちづくり評価書及び提案書、これに検討過程を参考資料として添付することの説明がありました。

全体協議では特に質疑はなく、説明のとおり了承されました。

4 市長への提案

柴田委員長が提案文を読み上げ、齊藤市長に提案書類を手渡しました。

5 市長あいさつ

（要旨）

委員の皆様には5カ月間、11回に及ぶ会議に貴重な時間を割いて出席していただき、心から御礼申し上げます。

30項目にわたる提案については、総合計画の次期実施計画にできるだけ反映し、実施計画がまとまる翌年3月には、改めて報告する機会を設けたい。

「若者の定住に結びつく産業の創出や雇用の確保」について指摘をいただいたが、市としても十分認識しており、今後も最重要課題としてとらえていく。

循環資源取扱支援施設の着工など能代港をリサイクルポートとして利活用するための準備が進んでおり、県北部エコタウン計画と連携して、環境を核とした産業創出に努力していきたい。確かに厳しい環境にあるが、絶望とあきらめの中からは何も生まれないと思っている。

我々にはすばらしい見本がある。何もないところから、優れたリーダーとやる気のある子ども達が、全国制覇58回を誇る能代工業高校バスケット部を作った。何もないところでも可能性を見出して、勇気を持って一步を踏み出す、必ず変えることができる、そして日本一のまちに向かって進むことができるということを教わった。

加藤廣志元監督は「高さへの挑戦」と言った。我々は消費地が遠いというハンディを抱えているので「距離への挑戦」である。皆様とともに連携と結束を持って臨めば、必ずこの地域は活性化すると信じている。

そのためにも、今日の提案を市政に反映しながら、皆様と同じ方向を向いて同じ一步を踏み出し、力を合わせてまちづくりに努力していきたいので、これからも皆様の力をお貸しいただきたい。

最後に、皆様の努力を無にすることなく、必ず生かしていくことを約束する。

6 その他

7 閉会

柴田委員長と安部副委員長から、提案書類の提出を終えて、それぞれあいさつがありました。

(安部副委員長あいさつ要旨)

今日は登山に例えると頂上を目指した日だと思う。しかしながら、登山は下山の方に気を付けなければならない。そういう意味では、今日、市長に手渡した提案に対して市ではどういう対応がなされるのか、検証する責任がある。これからもお互いに交流しながら、翌年3月にまた顔を会わせたい。

(柴田委員長あいさつ要旨)

委員の皆様への延べ出席率を計算してみたところ7割近かった。仕事を終えて夕食をとる時間もない午後7時に集っていただき、午後9時過ぎまで協議していただいた。グループリーダーの方には、さらに残って協議していただいた。こうした皆様の労苦が、今日の提案に結実したと思う。皆様の労苦に深く感謝する。

アドバイザーの2人にも貴重なアドバイスをいただき、感謝している。ロジックモデルを用いてワークショップにより検討するということが優れた方法であることを証明できたと思う。また、資料作成のために夜遅くまでがんばってくれた市職員に感謝を申し上げたい。

今日はまだ出発点であり、いかに実現するかがむしろ大事である。先ほど市長から力強い言葉をいただいたので、市でも努力していただけたらと思うが、それを私たちがバックアップしながら、総合計画の実現のためには、私たち自身が働いていかなければならないということを肝に銘じていきたいと思っている。